

男女共同参画標語  
最優秀賞  
「取手なら  
自分らしく輝ける」  
菅谷 真白さん 取手第二中学校(当時)

45号  
平成31年3月1日発行

# 風

優秀賞  
「認め合い つないだ手から 開く未来」  
八城 立樹さん 取手第一中学校(当時)  
「この社会 一人一人が 主人公」  
石田 瞳さん 取手第一中学校(当時)

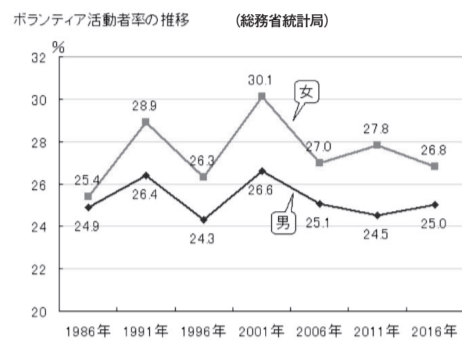
## 「私にできること」を持ち寄りの大きな力で

### 〜ボランティアで広がる働き方・生き方〜

相次ぐ自然災害で注目されるようになった災害ボランティア。全国から世代や性別を超えた人々が駆けつけ、ボランティアの重要性がもたらした。また、来年開催する東京五輪・パラリンピックでは、ボランティアの役割・あり方について賛否両論の意見が飛び交っています。知っているつもりで実は知らないボランティアの意義と現実。これからの社会、私たちの生き方・働き方にも大きく関わってくる問題です。

### 非日常から日常へ ボランティアの役割

総務省統計局の調査によれば、近年のボランティア活動への意識の高まりは必ずしも実際の活動に結びついてはいないようです。



### 取手市のボランティア

では、取手市のボランティア活動はどうでしょうか。取手市社会福祉協議会 地域支援係 小林係長にお話を伺いました。

「市内には二百を超えるボランティア団体がありますが、全体として減少傾向にあります。その最たる理由は高齢化です。活動の継続、人員確保が困難になってきています。」やはり、人員不足が深刻なようです。が、一方で、高齢者施設でのボランティアをポイントで換金できる制度を導入し、登録者を増やしている活動もあるそうです。

「ボランティアには様々な形態、方法があつて良いと思う。成功事例を共有して、それぞれに合った方法を見つけていくことも有効。行政の役割としては、情報提供やネットワークづくりで後押ししていくことが必要だと思います。」

さらに、ボランティアを始めるときは、趣味や楽しみで構わないとも。「まずは始めることが次につながります。やらされ感はありません。」

### 自分を生かすことが 誰かの役に立つ

切なのは、相手を思いやる気持ちです。喜びや達成感が活動を続ける動機にもなるでしょう。

取材を通して、これからのボランティアは、男性女性、現役世代や学生を含む多様な人々を取り込みつつ、働き方・生き方の選択肢のひとつになっていくのだろうと感じました。そのためにもっと自由な形で参加する方法やしくみを作る必要がありそうです。企業ではボランティア休暇や社会貢献意識の啓発など、従業員のボランティアに協力していく機運が生まれています。行政としても、このよう

## 「男性ボランティア活動」

### 〜生涯にわたって自分が輝き続けるために〜

取手市社会福祉協議会主催の「地域で再び輝くための男性講座」が、昨年11月から12月にかけて開催されました。この講座は市内在住で60歳以上の男性が対象で、定年退職後に地域活動を始めるきっかけとなるよう毎年開かれています。今回は「地域で再び輝くための男性講座」で紹介された「男性ボランティア活動」について報告します。

### 地域で再び 輝くための男性講座

男性講座は全5回の内容で、「定年退職後の地域デビュー」「取手市を探検(埋蔵文化財センター他)」「認知症サポーター養成講座・施設見学(藤代なごみの郷)」「料理教室」と続き、5回目が「男性ボランティアのサークル紹介」です。定年退職後、男性が地域で輝くにはどうしたらよいか。そのキーワードとしてボランティア活動を掲げています。



男性講座受講の様子

### 取手市の男性 ボランティアサークル

当日は「16創年の会」「23絆の会」「月曜会」「楽研会」の4つのボランティアサークルの代表から活動の紹介がありました。

### 「16創年の会」

は平成17年に発足し、現在の会員は23名、町紹介マップづくりや「ローンボウルズ」の普及活動を中心に活動しています。「23絆の会」は平成24年に結成され会員19名、農園で作った野菜を福祉施設に寄付したり、老人ホームのシート交換や、ゴルフ会などの活動を展開しています。「月曜会」は平成21年に結成し、会員は10名、社会福祉協議会行事のボランティア支援を重点活動にしています。主に各公民館を会場として行っている「いこいの場」の会場準備、受付などを行って



井上講師(前列中央)を囲んで受講生(前列)と各サークル代表(後列)

### 自分が 輝き続けるために

講師の井上忠志氏は、ボランティア活動で得られるものとして次の3点を挙げています。「友情」「情報」「感動」「利害をこえた友情は人生の財産だ、と。サークルの紹介者は、異口同音にボランティア活動で大切なことは「気負わず、無理せず、やることをやる」と述べています。

井上講師の男性ボランティア川柳、「ボランティア しているつもりが されており」。相手の感謝を自分の喜びとして受け取る、そうすることで生涯にわたり自分が輝き続けることができる、そんなことを実感した「地域で再び輝くための男性講座」でした。(落合)

この情報紙は、男女共同参画にむけた基礎作りの一環として、市民活動団体が主となり創刊(平成7年)。紙名は「風」と命名し、東京藝術大学院生(当時)がデザイン。地域社会のなかに男女共生のしなやかな風を入れる情報紙となることをめざしています。

# 障がい者との共生施設 の～ま 「カフェ ウェルカム」

の～まは知的障がい者の社会的な自立の助長を図るべく、就労支援の場を提供し、地域住民と交流を育んでいる共生型地域交流拠点です。の～ま内の「カフェ ウェルカム」を訪ね、管理運営をしている市社会福祉協議会・市立障害者福祉センターふじしろの嶋村施設長と井坂生活支援員に、活動状況のお話を伺いました。

「就労支援利用者31名に対し、当福祉センター職員18名、ボランティア団体「はとの会」や一般の方々約20名で、自立訓練や作業・創作活動などをサポートしています。昨年の夏休みには、初めて藤代紫水高等学校からのボランティア体験を受け入れ、生徒と障がい者が触れ合いの機会を持ちました。」と嶋村施設長。今回訪ねた「カフェ ウェルカム」は、平成28年10月に、藤代庁舎裏の当福祉センター隣にオープン。軽食・喫茶の他、利用者手作りの革製品や手芸品、野菜・ジャムなどの加工食品なども店内で販売しています。店は、明るく清潔で、テーブル



げんき米や野菜も販売

の配置もゆつたりして、くつろぐことが出来ます。お勧めは、「豚すじカレー」で、地元産のお米「げんき米」を使って育に良い」とされる利用者が作った竹パウダー（竹を粉砕して発酵させて作った土壌改良資材）を使い、契約農家の田んぼで収穫されたものです。訪問した当日も、多くの方がカフェを訪れ、賑わっていました。

利用者は、カフェの運営の他に、一般企業からの受託作業、自主生産事業を行うことで、工賃を得ています。障がい者と共に働く井坂さんに現場での支援や発見について伺うと「今おこなっている業務の後に、次は何をすればいいか、一歩先の見通しがつくように、声かけなどのアドバイスをしています。各種作業も、ちょっとした手助けで出来るようになってきました。これからは根気よく見守って、応援していきます。また、一人ひとりの個性を見極めて、丁寧な対応を心掛けています。カフェ内業務は、衛生面に細心の注意を払いつつ、役割分担していま



営業日：月曜～金曜 10:30～16:00  
カフェのラストオーダー 15:00まで

す。3～4名ごとのローテーション勤務ですが、支援員が想像する以上の力を発揮したり、カフェならではの作業や接客をするなかで、表情が活き活きしてくる様子がみられ、驚くこともありました」と、優しさあふれる笑顔で、語ってくれました。

「もつとカフェのPRをしたら？」と尋ねると、嶋村施設長は、「あくまでも、障がい者の自立・就業・交流の経験の施設であり、利益追従だけではなく、地元で愛されて利用される共生型地域交流拠点『の～ま』であればいい」と謙虚でした。「の～ま」とは、障がいがあっても健常者と均等に当たり前に生活出来るような社会こそがノーマル（通常）な社会であるという考え方「ノーマライゼーション」から由来しています。近くに、立ち寄った際には、一度訪ねてみては、いかがでしょうか。（糸井）

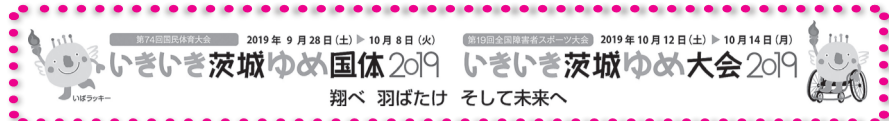


表紙絵 有本唯

発行日 平成31年3月1日  
編集発行 取手市 市民協働課  
下園淳子、河口優子、糸井弘、落合伊佐男  
〒302-8585 取手市寺田5139  
TEL 0297-74-2141  
FAX 0297-73-5995  
H・P http://www.city.toridebaraki.jp  
Eメール s-shien@city.toridebaraki.jp



（下園）



第74回国民体育大会（いきいき茨城ゆめ国体）と第19回全国障害者スポーツ大会（いきいき茨城ゆめ大会）が茨城県で開催されます。取手市では正式競技として自転車競技（トラック）が9月30日から10月3日、ボウリングが10月2日から7日に行われます。

45年ぶりの国体ということで、平成28年から国体準備室が、平成30年4月からは国体推進室が中心となり着々と準備を進めています。

## リハーサル大会が 開かれる

昨年、国体のリハーサルとして正式競技の全国大会が開かれ、自転車会場とボウリング会場に分かれ本番同様の競技が行われました。リハーサル大会では受付、ドリンクコーナー、お弁当配布と環境整備、賞典係、競技準備などでボランティアが活動しました。

## ボランティアの仕事

今回は10月15・16日に行われた自転車会場ボランティアの方にお話を伺いました。「取手に住んで20年、定年退職を機に何か地域貢献しようと



ドリンクコーナーで待機中

応募しました」。ドリンクコーナーを担当した川田さんは「広報とりでで知り応募しました。本番では笠間のゴルフにもエントリーしています。今回の経験で持ち場の細かいことが確認できたので9月は自信を持って動けます。初日は緊張で疲れましたが、楽しかったです。本番は

全日程頑張りたいと思います。」との感想をいただきました。競技会場内ではジャージ姿の高校生が会場の準備などにてきばきと動き、制服姿の取手第二高等学校と江戸川学園取手高校の女子生徒は表彰式のお手伝いで華を添えていました。江戸川学園取手高校1年生の矢代さんは後日「表彰式での賞状授与の仕事は初めての経験で不安でしたが、一度やってみると緊張もなくなり、貴重な体験ができました。参加して良かったと思います。」との感想を送ってくださいました。



表彰式のサポートをする高校生ボランティア

今回感想を伺った方々はこれからボランティア活動を何かしたいと思ひ、まず手始めに身近なことから体験してみようと参加した方が多かったようです。ボランティアのみならず、活動の合間に自転車競技を観戦しました。普段馴染みのない自転車競技でしたが、ルールを知り、レースを間近で見ることができ、勝負の駆け引きなど興奮が伝わり楽しめました。

## 国体推進室 蛸原室長は

リハーサルでは期間が短かったこともあり一般のボランティアは2日間で延べ40人ほど、高校生ボランティアは延べ66人が参加しました。期待以上にボランティアの方々が自主的に動いてくださり、効率よく運営出来ました。一般の中には語学研修中の外国人も多く参加しています。また、本番では200名のボランティアを予定しています。

国体は参加するアスリートが気持ちよく競技に専念できるように多くの人が支えます。競技する人、観戦・応援する人、そして大会を運営する方々が一体になって初めて成功します。

## みんなで 国体を 盛り上げよう



（河口）

## 編集後記

ボランティアの語源は、「進んで〜する」「喜んで〜する」という意味のラテン語で、本来は「自主性」「主体性」が中心の意味です。奉仕活動という意味で捉えられがちですが、福祉分野に限らず様々な分野で「好きなこと」「得意なこと」「気になること」を自分発で始めると捉えれば、ボランティアの敷居も低くなります。